

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874001411		
法人名	社会福祉法人 三光志福社会		
事業所名	グループホーム志深の苑		
所在地	姫路市御国野町深志野1430番地		
自己評価作成日	平成25年6月24日	評価結果市町村受理日	平成25年9月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigyosvoCd=2874001411-00&PrefCd=28&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	〒670-0955 姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成25年7月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山、竹林、田などが広がる古き良き風景が残る場所の小高い丘の上という立地を活かし、のどかに過ごせる雰囲気づくりに努めています。
 毎日の散歩を日課とし、野菜作りや草花などで季節を感じられるようにしています。
 個々の生活、嗜好、要望を尊重し、食事にも変化をつけたり、個別外出、交流を深めるために複数外出を行っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

姫路市東部に位置し、田畑の中の小高い丘の上で、周りは山に囲まれた自然豊かな環境に恵まれている。同敷地に特別養護老人ホーム・デイサービス・ケアハウス・小規模特別養護老人ホームなどが併設されている。職員は特別養護老人ホームで経験を積んだ後配属になる為、介護力もあり、協力も得やすい体制にある。玄関は開錠してベルや鈴もないが、中央の台所やリビングからの職員の見守りで安全を確保できている。毎日の散歩を日課とし、希望に応じて外出したり、ホームの中でできる力や希望を大切に、自立した生活に向けての支援を実施している。家族も月数回の面会があり協力的であり、皆で入居者の個別ケアを実現されることに大いに期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、ご家族にも理解・協力してもらい実践につながるようしている。運営推進会議にも参加して頂き、検討しています。	管理者は就任してから見直した理念を、職員の顔写真と共に玄関に掲げ日々の生活の中で立ち返りながら実践に繋げている。毎月のグループホーム会議でも確認し合っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の行事に参加したり、中学校とも交流機会を設けている。また、前年度は高等学校との交流機会も持つことが出来た。	例年、音楽会や運動会等の行事を通じて小学校との交流が行われている。中学校とは、トライやるウィークや夢ビジョンでの交流が行われている。又、今年度は新たに、高校生のボランティア実践の受け入れを行なった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談は随時受け付けているが、介護教室などは行っていない。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では生活、支援方法、ケアについて話し合い、第三者目線での意見を頂き、サービスに活かしている。	今年度から、併設のユニット型特別養護老人ホームと合同で運営推進会議が行なわれ、日々のサービス状況を報告している。参加の民生委員の口利きで、中学校の夢ビジョンに参加することができた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会を通じて、実情・要望などを伝え、連携を築けるよう取り組んでいる。	姫路20事業所からなるグループホーム連絡会を通じて連携することが多い。介護保険課職員に参加要請を行い、医療連携加算についての要望を提出することで若干、改善することができた。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所では身体拘束は行っていないが、法人全体で身体拘束廃止委員会を設置しており、廃止に向けて取り組んでいる。	昨年の外部評価より、玄関の施錠は行なわれていないが、見守りで利用者の安全は守られている。月1回の勉強会でも、身体拘束について正しく確認し合っている。安定剤においては病院に減らす方向に働きかけている。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修、勉強会などを行い、虐待防止に努めている。	今年度は認知症実践者研修に参加している職員が、法人全体で、研修を行う予定である。日常の中でも確認し合うようしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修は1回/年行い、全職員が理解できるように努めている。	毎年、全員が参加できるよう、同じ内容の研修が2回行われる。今年度も、虐待防止と権利擁護に関する研修を同時に行なう予定となっている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・相談時から疑問点などには全てお答えしているが、契約時にも直接説明し、不安を取り除けるように努めている。	利用者や家族が直接、相談に来訪したり、ケアマネジャーの紹介で見学に来られる。随時、入居に関して説明を行っている。契約時には、重要事項説明書に沿って、説明を行っている。特に質問が多い料金、受診、散髪については丁寧に説明している。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱にて話し難いことを聞けるようにし、そのほかはご家族とのコミュニケーションにて要望を聞くようにしている。また、運営推進会議時も話す機会を設けている。	意見箱を設置しているが効力は乏しい。担当職員が普段から関係性を大切にしていることで、意見は口頭で申し出てくれることが多い。	今年から、家族会が発足しているので、家族同士の意見の中から、要望等を吸い上げる工夫を期待したい。
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度グループホーム会議を行い、意見や提案を聞き、検討する機会を設けている。	グループホーム会議で、職員の意見が聞けている。職員配置に関することが多く、早出・遅出を配置することにした。少人数の職員のため、各々の意見を把握しやすい。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通し、実績、勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう職員の意見を重要視しています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は全員参加し、外部研修は受講機会を確保している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、研修、情報交換を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーション機会を増やし、本人の思いを傾聴し、いつでも相談できる関係が築けるよう努めています。また、センター方式も活用している。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談時から家族にも支援していくように努めています。不安なこと要望も家族と共に解決できるように努めています。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人と家族状況を把握し、様々なサービスを説明し、選択できるアドバイスを行っています。また、24時間シートも活用している。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、洗濯などの家事をともにに行い、同じものを食べ生活している。何かをするにも一緒に考え決めるように心掛けている。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行い、共に考え対応しており、考え・思いを共有している。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来苑できるような、また、行事に参加しやすい雰囲気づくりに努めている。	馴染みの方がデイサービスを利用した際は交流がある。買い物の最中に知人と会ったり、要望があれば自宅を見に行ったりしている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、何かをするときは利用者から声をかけ一緒にできるよう促している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も当苑での支援方法などの情報を提供している。また、ご家族からの相談も受け付けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から要望、意向を拾い上げるよう心掛けています。また、何を望んでいるかを会議で本人目線で検討している。	センター方式の様式をうまく活用して、思いや意向の把握に取り組んでいる。日ごろの会話等でも、吸い上げるように努めている。	センター方式を活用し、思いの把握に取り組みかけたのは大きな前進である。家族の協力を得ながら生活歴を知り、今後の入居者との生活に活かされることを期待したい。
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を本人から聞くとともに、家族からも情報を集めるようにしている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、利用者の状態を把握できるように努めている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に意向を確認し、出来る限り反映させ、職員間で検討し作成しています。	見直しを随時行い、介護計画を作成している。介護計画書の用紙で評価ができる工夫がある。家族の面会も多く、本人、家族の意見も反映しやすい。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、実践や結果、気づきや工夫は個別に記録し、職員間で共有することで介護計画に活かしています。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて受診の支援などを行っている。また、重度化にも対応できるよう特殊浴槽も設置している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事には地域の方の参加があります。地域行事には参加し、交流を図っています。		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族による受診は受診表を作成し、かかりつけ医に詳細に伝えていきます。また、必要に応じて受診介助もしています。	定期のかかりつけ医受診は、家族にお願いしている。その際は、受診票を準備し適切な医療を受けられるようにしている。緊急時の受診は、ホーム職員が行なっている。7名の入居者は、協力医がかかりつけ医のため、定期的に往診を受けて、関係も築けやすい。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より併設施設の看護師と情報を共有し、適切な受診、看護が受けられるよう支援しています。また、協力病院の医師・看護師とも連携に努めている。		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と共に情報提供し、頻りに面会して早期に退院できるよう支援している。また、Dr、Nsとの関係づくりにも努めている。	入院の際は、頻りに面会に行き、医師、看護師と調整して早期退院に努めている。点滴治療において、併設事業所看護師の協力が得られることが、早期退院を可能としている。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に説明し、随時家族と医療機関と話し合いを行い、事業所での対応を見極め支援しています。	基本的に、医療的措置がない場合は、看取りケアを行なう体制がある。ホームで看取りたいとの職員同士の理解もある。協力医療機関の支援や併設の特別養護老人ホームの協力を得られることが、利用者や家族の安心に繋がっている。	
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、緊急時のマニュアルを整備している。心肺蘇生法・AEDの研修は1回/年行っている。		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との合同避難訓練を年2回行い、避難方法を身につけられるよう努めている。	消防署からの指導で、夜間想定訓練を2回行うことを予定している。運営推進会議でも議題となり、立地場所や、地域の高齢化に伴い、避難場所として提供する運びとなっている。併設事業所職員の応援も要請できる。	ホーム独自の避難訓練を実施してほしい。避難方法や、短時間で一人でも多くの入居者を避難させる方法を、全職員にシミュレーションしてもらいたい。

自己	者 第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない様、言葉かけ、対応には常に検討し注意しています。	日常生活の支援の中で、馴れなれしくならないよう言動に注意している。特に排泄介助時の言葉かけの場面で、注意している。「トイレに行きましようか？」ではなく、「部屋に行きましようか？」と言葉かけを行なっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを表出し難い方には職員からコミュニケーションを通して働きかけ、自己決定を促しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛け、促しはしていますが、一人一人の意見を聞き、ペースに合わせて過ごしていただいています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は自立の方、介助の方個々に状態に合わせて対応しています。衣類は本人と相談しながら決めていきます。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週土・日曜日の昼食は利用者の要望などからメニューを決め、調理や食事を行っている。また、毎週土曜日の朝食はモーニングを行っている。	同法人の管理栄養士がメニューを作成するが、土・日曜の昼食は利用者の希望で献立を決めたり、土曜の朝食はホーム内でモーニングを作っている。出来る入居者と準備・盛り付け・片付けを一緒に行うようにしている。また、希望に応じて外食にも対応している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士管理の下にメニューが作成されています。水分補給は好みを把握し、水分量の確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に応じて歯磨きをしてもらっています。介助が必要な方も職員が行っています。また、歯科往診にて口腔ケアも行っています。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ、紙パンツの使用は必要最低限に抑え、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っています。	現在オムツの使用者はおらず、紙パンツから布パンツ(パット使用)への移行を図っている。各入居者の排泄パターンをチェック表で把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保と、毎日散歩にて予防に努めている。また、かかりつけ医、同法人看護師などと連携を取り服薬も行っている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施しているので、希望にいつでも入れるようにしていますが、最低3回/週は入浴して頂くように支援している。	2～3人一緒に入れる浴槽であるが、個浴で介助しており、毎日3～4名の希望者が入浴している。特浴もあり対応できる。週3回の入浴を行っており、季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯、ホーム内に実った柑橘実を入れて楽しみへの工夫を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況、状態に合わせて休息、眠れるように支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的、副作用を理解して確実な服薬ができるよう支援しています。症状の変化にも注意し、医師との連携も取っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を活かして料理、掃除、洗濯などで発揮してもらっています。また、希望により音楽・習字・クラフトなどのサークルに参加していただき気分転換できるよう支援しています。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日用品の買い物は随時出かけています。その他は希望に沿って外食、体験外出を少人数または個別で行っています。	毎朝、食後の日課でホーム周辺の散歩を行っている。また、希望に応じて日用品の買い物には、随時出掛けている。さらに、家族も誘って玩具館やあじさい園など外出やドライブの機会も定期的にある。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使わなくても財布を所持することで安心される方は家族と相談し支援しています。また、所持されていない方も、所持されている方も買い物のお金をお金を渡し、本人で支払うことができるよう支援しています。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が電話をかけ取り次いでいる。携帯電話を所持されている方もおられるので、自室にて使用できるよう支援している。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には有線放送を流し、壁には創作した季節の壁画、外出時の写真などを展示し、楽しめるよう配慮している。	吹き抜けの明るい共用空間には、希望で有線放送が流れたり、壁には皆で作成した壁画が貼られ季節感を感じさせる。外出時の写真などの展示もあり、入居者の穏やかな表情がみられる。空調で適温に調節され、中央の台所から、そと職員が見守りを行っている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチなどを置き、思い思いに一人、または気の合う方と過ごせるよう配慮している。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、使い慣れた筆筒などを使用してもらい、個々の思いに合わせた部屋づくりを支援している。	馴染みのペット・家具・仏壇・位牌などを持ち込み、孫の写真や手紙を貼ったりして居心地の良い部屋になっている。車いすで使用できるトイレや洗面所が各部屋に設置されている。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室などはわかりやすく表示し、間違えないよう各居室には名札を付けるなどしています。		